

# ことばの教室通信

東小通級指導教室

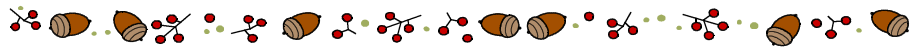
11月 

朝夕めっきり肌寒くなり、色づき始めた木々の葉に秋の深まりを感じる頃となりました。子供たちは、「公園でどんぐりや松ぼっくりを拾ったよ。」「きれいな色の葉っぱを見つけた。」「落ち葉がカサカサと音がしておもしろいよ。」などと、楽しそうに話しています。子供たちは、季節ごとの楽しみを見つけているようです。

## 文集「ほうせん花」について

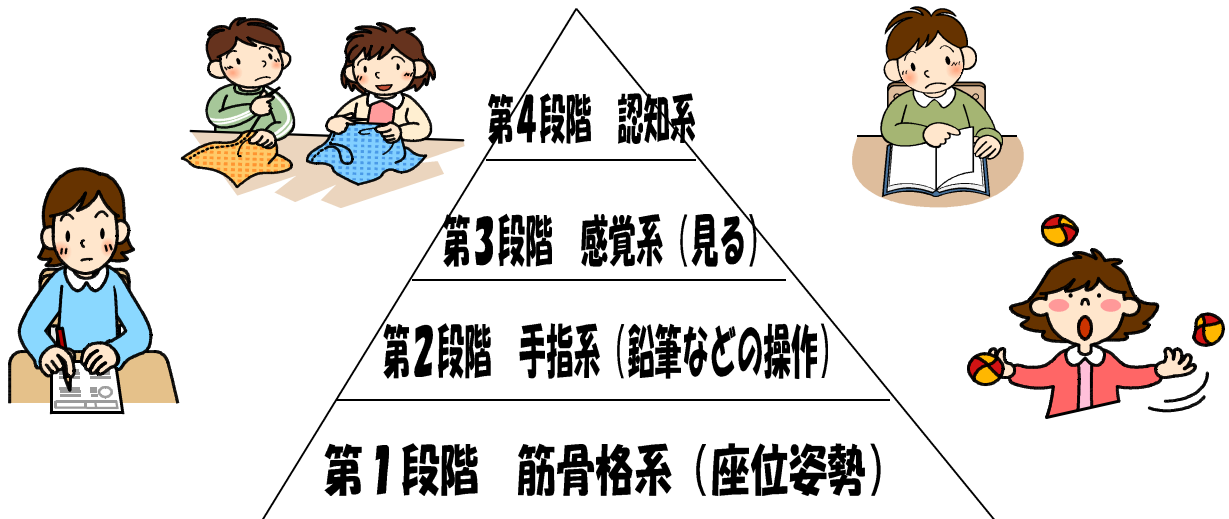
毎年、ことばを育てる親の会活動において、文集「ほうせん花」を発行しています。今年度も発行する予定です。発行に当たり、保護者の皆様の御協力をいただきたいと思います。詳しくは、後日文書を配付いたします。

## 書くこととは



書字練習のとき、私たち大人の視線は子供の書いた「字」に向きがちです。しかし、字を書く子供の体にも目を向ける必要があります。座る姿勢や鉛筆の持ち方などの「土台」があってこそ、字が正しく書けます。さらに、字を書くには眼を上手に動かして見る力、形の認識や注意力など、脳で行われる認知の機能も問題となります。書字は、それが統合されたとても高度な作業なのです。

そこで、ことばの教室では、子供の体の動きを見るとき視点として、下記のようなピラミッド構造で捉えて指導・支援しています。



- 第1段階は、姿勢を保つ、バランスをとる機能。
- 第2段階は、鉛筆を握る、消しゴムを握る、紙を押さえるなどの指先の操作機能。
- 第3段階は、教師や黒板、教科書などを見る機能。
- 第4段階は、説明を聞いてやり方を考えたり、教師の話に注意を向けたりする、やる気、意欲などが含まれた、注意、思考の認知機能。

子供たちの学習に関わると、一般に意欲、理解力、表現力、注意力などの第4段階に目に向きがちです。書字の場合は、加えて書く動作を直接に行う第2段階の手指の動きも注目されます。

しかし、この第4段階、第2段階の能力を十分発揮するためには、第3段階の見る力や第1段階の姿勢が十分に備わっていることが必要になってきます。上記のピラミッドが成立してはじめて学習がうまくいくことを知っていただきたいと思います。

参考図書「気になる子どものできた!が増える 書字指導アラカルト」(中央法規)

